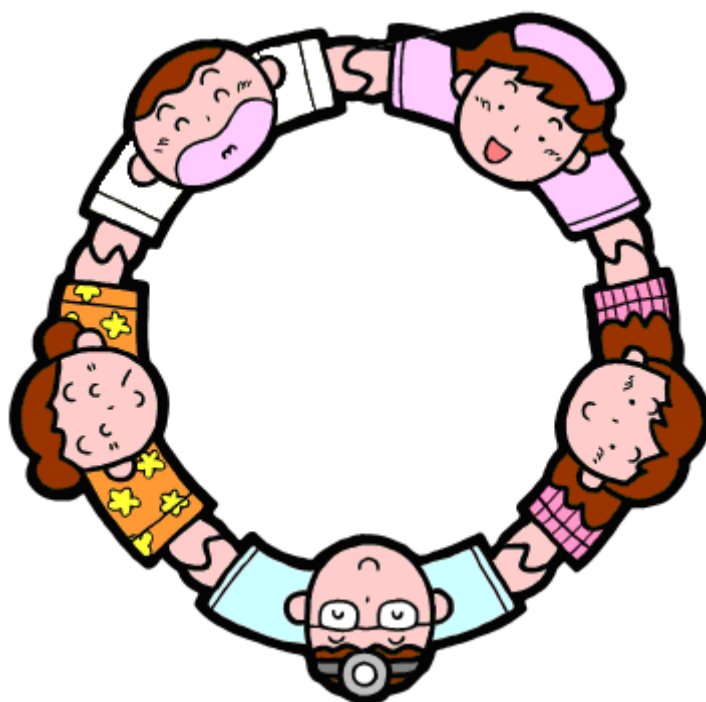


ゲムシタビン療法の手引き



2020年2月

国立がん研究センター中央病院
乳腺・腫瘍内科 薬剤部 看護部

はじめに

乳がんや卵巣がんの進行を抑えるために、全身治療としてさまざまな抗がん剤が用いられますが、ゲムシタビン療法はよく使われる抗がん剤治療のひとつです。

抗がん剤の副作用には個人差があって、全ての人に同じように起こるものではありません。また薬の種類によっても副作用の特徴が大きく違います。

この小冊子には、ゲムシタビン療法によって起こりうる主な副作用とその対策についてまとめました。

ゲムシタビン療法によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対処法を知ることにより、不安なく日常生活を送れるよう、これからゲムシタビン療法を受けられる皆様にこの小冊子を役立てていただければ幸いです。

方 法

《点滴に用いられる薬》：

以下の 3 本の点滴ボトルを順番に点滴します。

<u>ボトルの内容</u>		<u>点滴時間</u>
デキサメタゾン注	(吐き気止め)	約 15 分
ゲムシタピン注	(抗がん剤)	約 30 分
生理食塩液	(点滴管内の抗がん剤を洗い流す)	約 10 分

《注射方法》：

1 回の点滴にかかる時間は約 1 時間です。

<乳がん>

サイクル	1			2			3			4		
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	...
点滴	↓	↓	休	↓	↓	休	↓	↓	休	↓	↓	...

<卵巣がん>

サイクル	1				2				3			...
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	...
点滴	↓	↓	↓	休	↓	↓	↓	休	↓	↓	↓	...

副作用や病状により、休薬したり、中止したりすることもあります。

注射名：ゲムシタビン注



無色透明

細胞が分裂する時、DNA の合成が行われています。これは、がん細胞が分裂する時にも起こります。ゲムシタビンは、がん細胞に取り込まれて、DNA の合成を阻害し、がん細胞の分裂を止めることで、がんの増殖を阻害したり、死滅させます。

注射部位に違和感や痛みを伴うようなことがありましたら、医師・看護師にお申し出下さい。



現在、他のくすりを服用されていて、薬の飲み合わせなど、気になることがございましたら医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

副作用とその対策



ゲムシタビン療法を行った際の副作用はすべての方に起こるわけではありません。その程度には個人差があります。

以下に主な副作用とその対策についてご紹介いたしますので参考にしてください。

発疹

発疹は 4 人に 1 人くらいの割合で起こります。皮膚が赤くなったり、かゆみを伴ったりすることもあります。症状に合わせて飲み薬や塗り薬を使用する場合があります。強く出た場合は、治療をお休みして様子を見ることもありますので、医師・看護師・薬剤師に相談して下さい。

発熱

ゲムシタビン療法を受けてから 3 日以内に 4 人に 1 人くらいの割合で 38℃ くらいの熱が出る場合があります。病院で解熱剤を渡されている場合は指示通り服用して下さい。

点滴後 1 週間を過ぎてからの 38℃ 以上の発熱は抗生剤の服用が必要になる可能性が、ありますので病院に連絡をして下さい。



白血球減少

血液中の白血球は、体内に細菌が侵入しないように守る働きをしています。白血球が減少すると細菌に対する防御能が低下し、発熱や感染を起こす可能性があります。一般的にくすりを点滴してから1～2週間目に白血球の数が少なくなり、3～4週間目で回復してくると言われています。この時期には予防が大切です。



対策

感染予防のために、外出から帰った際には手洗いやうがいをしましょう。入浴やシャワーで体を清潔に保つことも大切です。日常生活の中で、皮膚に傷をつくらないように注意しましょう。

扁桃炎・虫歯・歯槽膿漏・膀胱炎・痔などがある方は、あらかじめ担当医にご相談ください。

ゲムシタビン療法の場合、点滴後 1 週間を過ぎてからの 38℃以上の発熱は、抗生物質の服用が必要になる可能性がありますので、担当医にご連絡下さい。

(国立がん研究センター中央病院 代表:03-3542-2511)

血小板減少

血小板は、血液を固まりやすくする働きがあります。血小板の数が少なくなると、出血しやすくなります。血小板の数が少なくなり、出血傾向がみられる場合は、輸血を行うこともあります。身に覚えのない内出血や血便・血尿・鼻血など見られたら、すぐに連絡して下さい。

対策

ケガや転倒の危険性がある作業はなるべく避けましょう。体を洗う時に強くこするのはやめましょう。トイレの後はやさしく拭きましょう。歯ブラシは毛の柔らかいものを使い、やさしく磨くようにしましょう。

疲労感

疲労感は 2 人に 1 人くらいの割合で、たいてい点滴当日から 2、3 日続く場合があります。疲れを感じた時は、無理をせずに体を十分に休めましょう。また、体を冷やさないようにしましょう。



吐き気・嘔吐

ゲムシタビン療法により吐き気の症状がでることは比較的少ないと言われてはいますが、患者さんによっては吐き気が出たり、食欲が低下したりすることがあります。

対策：

口の中を清潔にしたり、室内の換気を十分にしたりすることで予防することもできます。



吐き気が出てコントロールできなかつた時は、飲み薬や注射薬を使用することで症状を軽くすることができますので、医師・看護師・薬剤師に相談して下さい。

注射部位の痛み



くすりを注射している間に、その注射部位が痛んだり赤く腫れてきたりした場合、また熱感やかゆみなどの不快感があった場合は、すぐに医療スタッフへお申し出下さい。

脱毛

ゲムシタビン療法で軽度の脱毛がおこることがありますが、頻度は比較的少ないといわれています。脱毛がおこったとしても、治療を終了すれば回復し始めます。



対策

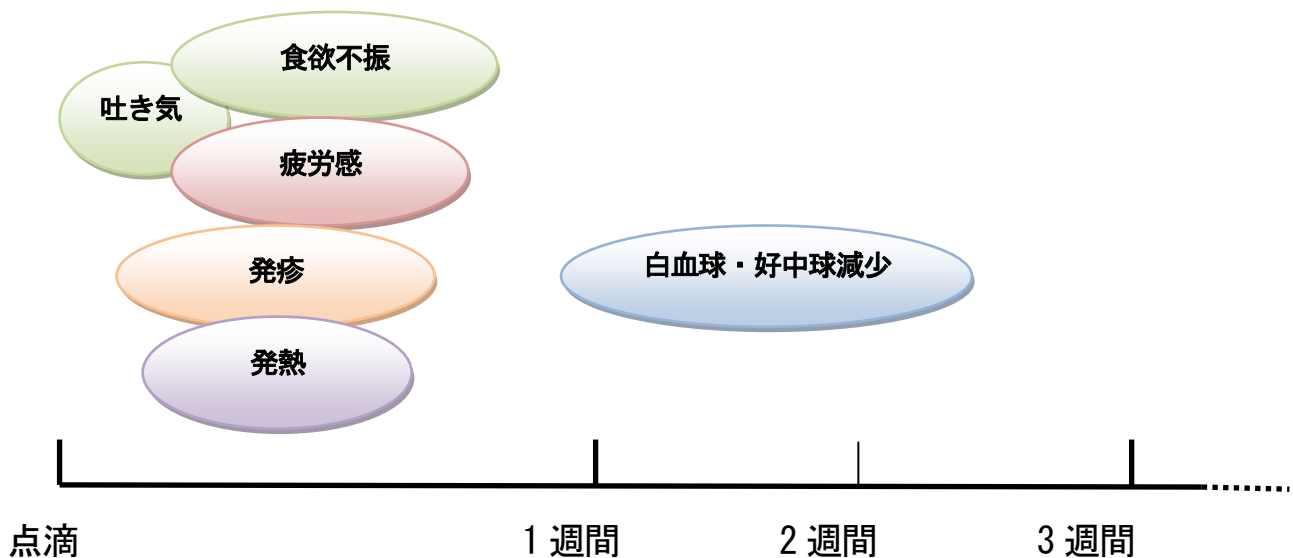
髪の毛が回復してくるまでの間、かつらやバンダナ・帽子などを使用すると良いでしょう。シャンプーは刺激の少ないものを使用し、外出の際は直射日光を避けるために帽子や日傘を使うとよいでしょう。




悩んだり、不安になる前に、外見に関するご心配ごとがあれば、**アピアランス支援センター**までご相談ください。

※オレンジクローバーはアピアランス支援センターのシンボルマークです

副作用の発現時期






監修 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科
発行 国立がん研究センター中央病院

編集 薬剤部

編集協力 乳腺・腫瘍内科

看護部



使用イラストは MPC 刊「薬と予防イラスト集」より転載